

研究実施のお知らせ

2020年04月01日 ver.1.1

研究課題名

EBUS-GS を用いた気管支鏡検査における Residual Bronchial Wall(RBW)所見の有効性に関する検討

研究の対象となる方

2017年4月から2019年6月の間に島根大学医学部附属病院で肺疾患の診断目的に気管支鏡検査を受けられた方

研究の目的・意義

当院で肺疾患の診断目的に超音波気管支鏡検査(EBUS-GS)を行った患者さんについて EBUS 所見上で、病変内に残存している気管支壁が白色調に追える所見(Residual Bronchial Wall(RBW))を認めた症例の組織診断結果、病変の大きさ、RBW を認めた気管支の回数などを後ろ向きに検討します。病理診断との関連を評価し RBW 所見の有効性に関して検討します。

本研究を行うことにより EBUS 所見で RBW を認めた場合、組織診断の推定に有用であるかが分かると考えられます。

研究の方法

以下の項目について診療録を参照し後向きに調査を行います。
気管支鏡検査日、年齢、性別、病変の位置・気管支の回数、病変の大きさ、病理検査結果、治療内容

検討用のデータには患者さんの ID や名前は含まず、個人情報が出ないようにいたします。また、研究データは島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学内の外部から容易にアクセスできないPCに保管します。PCにはセキュリティを設定し、パスワードで利用可能な研究者を制限します。外部へ持ち出すことはありません。研究結果は学会等で発表しますが、患者さんの個人情報が含まれることはありません。

研究の期間

2019年11月から2020年12月

研究組織

この研究は島根大学医学部内科学講座・呼吸器臨床腫瘍学が行います。この研究は次の機関が参加して行います。

研究責任者（研究で利用する試料・情報の管理責任者）：

島根大学医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学 栗本典昭

気管支鏡検査の責任者

島根大学医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学 栗本典昭

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2020年6月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学 栗本典昭

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2581 FAX 0853-20-2581